



ガソリン174円、1年ぶり高値 補助金縮小響く

資源エネルギー庁が20日発表したレギュラーガソリンの店頭価格（全国平均、18日時点）は前週と比べ0.7円高の1リットル174円と、1年1カ月ぶりの高値をつけた。値上がりは9週連続で、22年の補助金導入後で最長となる。足元の原油価格の上昇にくわえ、補助金の段階的な縮小が影響した。9月末に補助金は終了予定で、さらなる高値も予想される。



政府はインフレ対策で22年1月から石油元売りなどに補助金を支給している。6月から算定方式を見直したことで、補助金は前年比で減っている。13日から19日までの補助額はガソリン1リットルあたり10.4円だった。原油価格が1バレル100ドル前後の高値をつけた昨年6～7月ごろには40円前後を補助していた。補助金が少なくなった分、ガソリン価格は上がりやすい。

足元で原油価格が上がっていることも要因だ。原油のアジア市場の指標となる中東産ドバイ原油は13日に1バレル80ドルを突破し、4月26日以来、2カ月ぶりの高値をつけた。足元も79ドル台と高水準が続く。

政府の補助金は9月末で終了する予定だ。単純に18日時点のガソリン価格から補助金を差し引くと1リットル当たり184.4円となる。原油価格は産油国のサウジアラビアとロシアによる自主減産の影響を受け、上昇圧力が高まっている。補助金の終了も重なれば、ガソリン価格の高止まりが続くとの見方は多い。

「ガソリン値上がりの要因は補助金縮小に加え、円安・ドル高による輸入コスト増、給油所の電気代高騰など運営費用の増加も重なっている。利益確保に苦しむ給油所が価格転嫁をやめるとは考えにくい」（市場関係者）との声も聞かれる。

資源エネルギー庁によると、24日時点のガソリン価格は補助金がなければ185.1円とさらに値上がりする想定だ。抑制の目標とする168円との差17.1円に補助率60%を乗じた10.2円が20日から1週間の補助額となる。



円、軟調 一時140円台前半 中値「ドル買い優勢」の声

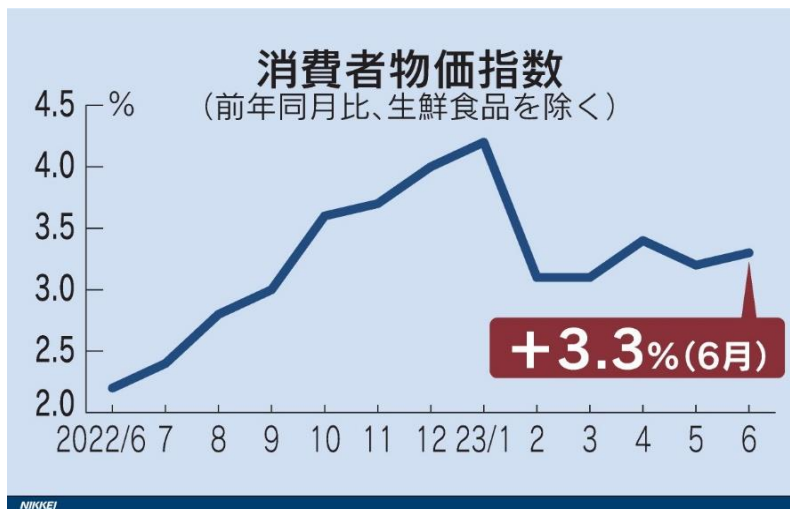
21日午前の東京外国為替市場で円相場が軟調だ。10時時点は1ドル=139円93～95銭と前日17時時点に比べ31銭の円安・ドル高だった。10時前の中値決済に向けて「ドル買いが優勢」（国内銀行の為替担当者）との声が聞かれ、国内輸入企業による円売り・ドル買い観測が相場の重荷となった。日経平均株価が下げ渋ったのもあって円は10時半すぎに一時140円14銭近辺まで下げ幅を広げた。

9時すぎに円は139円75銭近辺まで下げ幅を縮小する場面があった。6月の全国消費者物価指数（CPI）の伸びが高止まりし、日銀が大規模な金融緩和策を見直すとの思惑が改めて意識された。日経平均が一時400円あまり下落するなど調整色を強める局面で「低リスク通貨」とされる円には買いの勢いが増した。

円は対ユーロでやや上げ幅を縮めた。10時時点は1ユーロ=155円85～87銭と同60銭の円高・ユーロ安だった。ユーロは対ドルで小動きで、10時時点は1ユーロ=1.1137～38ドルと同0.0068ドルのユーロ安・ドル高だった。



消費者物価指数、6月3.3%上昇 2カ月ぶり伸び率拡大



総務省が21日発表した6月の消費者物価指数（CPI、2020年=100）は変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が105.0となり、前年同月比で3.3%上昇した。伸び率は2カ月ぶりに拡大した。電気代の値上げが押し上げ、食品高も続いている。

QUICKが事前にまとめた市場予測の中央値の3.3%と同じだった。プラスは22カ月連続。日銀の物価目標である2%を上回る状況が続く。

生鮮食品を含む総合指数は3.3%上昇した。米国の6月の総合指数は3.0%プラスで、上昇率は日米で逆転した。

生鮮食品とエネルギーを除く総合指数は4.2%上がった。伸び率は5月から0.1ポイント縮小した。指数の伸びが前月を下回ったのは22年1月以来17カ月ぶりとなる。

総務省は政府の電気・ガス料金の抑制策と観光支援策「全国旅行支援」がともになれば、生鮮食品を除く総合が4.4%上昇だったと試算した。単純計算すると、政策効果で伸びは1.1ポイント抑えられた。

品目別で見ると、エネルギーは前年同月比で6.6%低下した。5月から下落幅が1.6ポイント縮んだ。電気代は12.4%の低下で、5月は17.1%マイナスだった。大手電力7社が6月に家庭向けの電気料金を引き上げたことが影響した。政府の電気・ガス料金の抑制策により、水準としてはマイナスで推移する。

生鮮食品を除く食料は9.2%上昇した。伸び率は5月から横ばいで、1975年10月の9.9%以来となる高水準に



理研、アンモニア貯蔵の新技术法 常温常圧で安全に

理化学研究所と埼玉大学の研究チームは、アンモニアを常温常圧で貯蔵できる新たな手法を開発した。アンモニアを別の物質に変換して取り込める特殊な結晶を使う。脱炭素社会のエネルギーとして期待されるアンモニアを安全に運搬できる可能性がある。

アンモニアは常温では毒性のある気体だ。低温で液化するほか、圧力をかけて圧縮する方法で運搬されているが、手間とコストがかかるため、常温常圧で大量に運ぶ方法が求められている。

ナノ（ナノは10億分の1）メートルサイズの穴が空いている多孔質化合物を使う方法も研究されているが、アンモニアを取り出す際に高温が必要なうえ、繰り返し使うと劣化する課題がある。

理研の川本益揮専任研究員と伊藤嘉浩チームリーダーらはアンモニアと常温常圧で反応する有機物と金属でできたペロブスカイト型の結晶の一種を発見した。この結晶は柱状に分子が並んでいるが、アンモニアと水に反応して層状に変わる。

その際、アンモニアは窒素化合物となり、層の表面にくっつく。真空中でセ氏50度にするると結晶構造が柱状に戻り、アンモニアを取り出せる。

常温常圧で安定な状態を保ち、貯蔵や運搬も簡単にできるとみている。アンモニアと反応すると色が変わるため、アンモニアを検知するセンサーにも応用できるという。今後は協力企業を探して大型化し、2030年ごろの実用化を目指す。

ペロブスカイト結晶は次世代の太陽電池にも応用されている。





週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	6/6～6/12	74.94	1.74	140.54	▲0.14	66.24	1.47
	6/13～6/19	74.20	▲0.74	141.49	0.95	66.03	▲0.21
	6/20～6/26	75.78	1.58	143.50	2.01	68.39	2.36
	6/27～7/3	74.76	▲1.02	145.27	1.77	68.30	▲0.09
	7/4～7/10	77.02	2.26	145.05	▲0.22	70.26	1.96
	7/11～7/17	80.14	3.12	140.52	▲4.53	70.83	0.57
水曜日～ 火曜日	6/7～6/13	74.63	1.62	140.56	0.01	65.97	1.43
	6/14～6/20	74.91	0.28	142.00	1.44	66.90	0.93
	6/21～6/27	75.51	0.60	143.78	1.78	68.28	1.38
	6/28～7/4	74.73	▲0.78	145.46	1.68	68.37	0.09
	7/5～7/11	77.30	2.57	144.43	▲1.03	70.22	1.85
	7/12～7/18	80.46	3.16	139.87	▲4.56	70.78	0.56

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート